

財団設立 3周年記念行事 シンポジウム&パネルディスカッション 共催者ご挨拶

2020年(令和2年) 10月18日
理事長 小竹直隆



本日は、新型コロナウイルス感染の警戒が強まる中、ご多用にも関わらず、ご参集を賜り、誠に有難うございます。お蔭さまで、当会は、財団設立から3周年を迎えました。ご支援を戴いた多くの会員、関係者・関係機関、市民のみなさまに心より篤く御礼申し上げます。

本日のシンポジウム&パネルディスカッションは記念行事とさせて頂く次第でございます。本日のテーマは、近未来の世界遺産を目指し「2022年江戸城等全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化まちづくりの形成を目指す」の「第一弾」として位置付け、基本的な視点からのご議論を戴きたく設定しております。

ご来賓には古今東西奔走されご活躍の国連観光機関駐日代表の本保様をお迎えし、基調講演には江戸東京歴史文化のパイオニアにしてフィールドワークの第一人者の陣内様をお迎えしております。調査報告では都市史研究家の後藤様、パネルディスカッションでは、いま、正に、第一線でご活躍のそうそうたる気鋭の研究者のみなさまにお揃いを戴いております。さて、どんなお話しになるのか心待ちに期待しております。

当会との「共催」をさせて頂いております日本イコモス国内委員会さまには、調査研究委員会のアドバイザーをはじめ、一方ならぬお力添えを頂き、改めて篤く御礼申し上げます。また、千代田区をはじめとする下記の江戸東京の歴史や文化まちづくりをされている多くの団体、コミュニティの皆様には「ご後援」を賜り心より篤く御礼を申し上げます。

千代田区、

東京文化資源会議、外濠再生懇談会、法政大学江戸東京研究センター、(有)谷根千工房、

(一社)文化倶楽部、(一社)日本イコモス国内委員会第18小委員会：文化的景観

(公財)日本ナショナルトラスト、NPO法人 粋なまちづくり倶楽部、

NPO法人 たいとう歴史都市研究会、環境NGO E・C その他多数

当会は、2004年江戸城再建を目指す会の市民運動を創設以来、世論喚起を旨とする活動を展開して参りました。2017年財団法人を設立し、旧江戸城及び城下町の歴史的文化的価値を調査研究し、その成果や今日的意義を社会一般に普及・啓発・提言を行い我が国の文化芸術並びに歴史文化まちづくりの振興に寄与することを目的として活動を進めております。

さて、世界はいま、パンデミック・コロナ禍により、未曾有の嵐が吹き荒れ、社会経済の厳しい環境変化の下、江戸東京歴史文化ルネッサンスの事業も運動もまた、正に、大きな分水嶺の時を迎えている、と新たな認識を深めております。

これまでの調査研究委員会並びにシンポジウム等の成果や今日的意義をすみやかに、社会一般に、普及・啓発すると共に関係者並びに関係機関に対しご報告や具体的な提言の活動を進めて参ります。

本日は、誠に有難うございます。

以上

(機関紙第9-1号より)